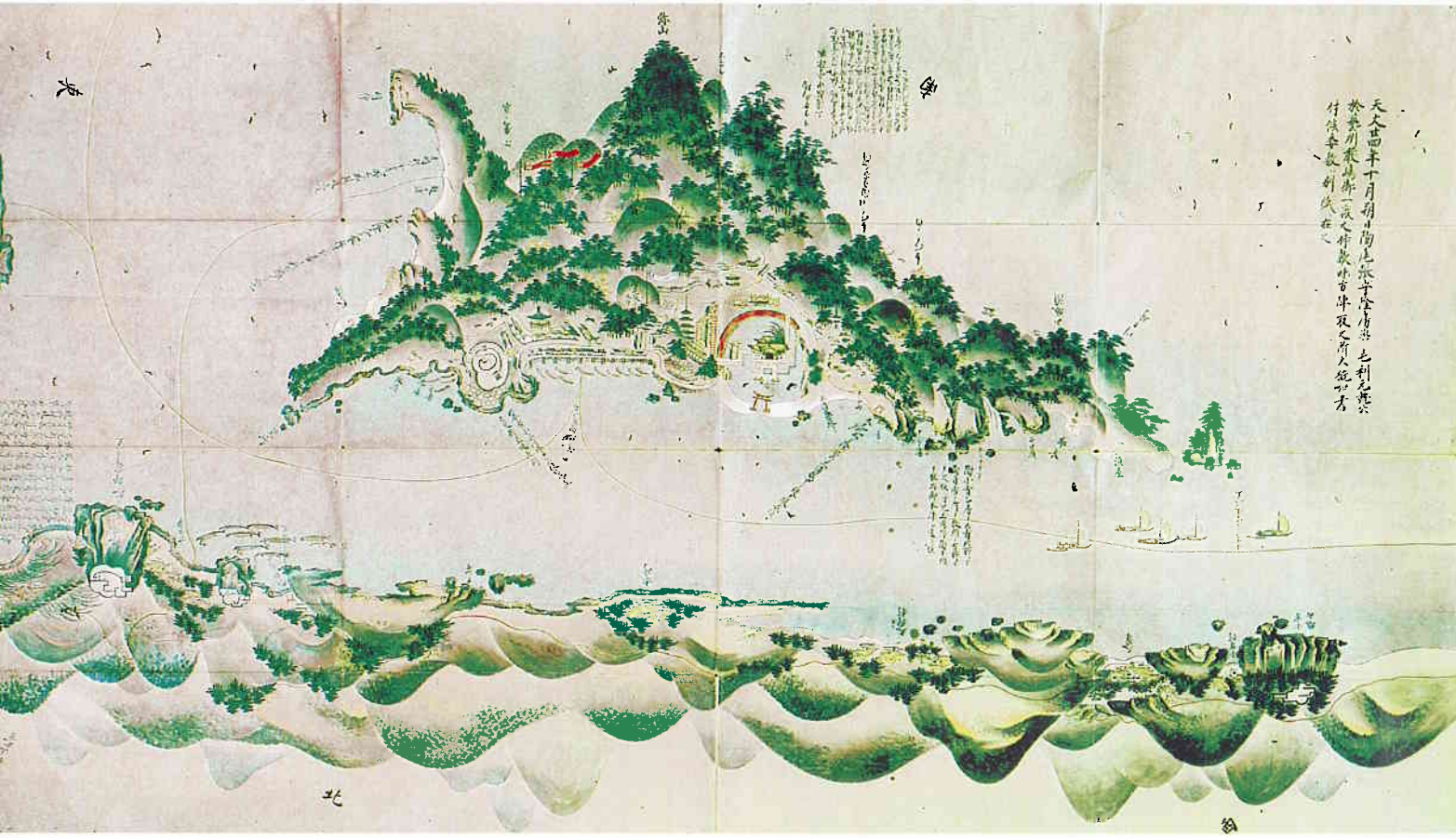
文書館ニュース

1997年３月 No.31

編集・発行
山口県文書館（もんじょかん）
〒753 山口市後河原150－1
TEL (0839)24－2116
FAX (0839)24－2117



芸州厳島御一戦之図（毛利家文庫）105.5×176.3cm

毛利元就と厳島合戦

弘治元(1555)年10月１日、毛利元就は厳島で陶晴賢の軍を破り、中国地方制圧に躍進した。本図はその厳島合戦の軍勢配置や戦闘状況を描いたものである。

図面の中央に厳島（広島県宮島町）、その手前に瀬戸を挟んで本土（同前大野町・廿日市市）を配し、建物・道筋・船路などが細かに記入してある。

合戦が行われたのは厳島の中央にある弥山（530㍍）の麓で、図中には「陶尾張守本陣」の陶氏の白旗と、それに対する毛利氏の赤旗が描かれている。

弘治元年９月21日、毛利元就と対峙した陶軍は大挙して厳島に渡り、本営を塔ノ岡に置いた。同月30日、毛利軍は本営の置かれた「地ノ御前」（本土側）から本軍と別軍に分かれ、別軍は牽制の目的で厳島神社大鳥居前に向かい、本軍は別軍に続いて「鼓カ浦」からよじ登り塔ノ岡の背後に達した。陶軍は毛利軍の奇襲攻撃には対応できなかった。

なお、本図の系統本が当館の村上家文書に含まれている。

（河村克典）

目　次

○毛利元就と厳島合戦　（河村）1
○「遠用物」（一部）、閲覧開始　（吉積）2
○〈誌上展示〉建治二年の「官宣旨」　（小山）2
○写真メモ・1996年　（山崎）3
○文書館ニュース１～30号(1965～96)：総目次　（百田）5
○文書館整備構想検討会　（吉積）6
○〈地域トピックス〉阿東町での行政文書整理　倉増　清　6
○アーキビストの祭典 ―第13回ＩＣＡ北京大会―　（山田）7
○書物を読む　宮本典彦（山口県文書館館長）　7
・事業計画から／・閲覧室よりメッセージ／・編集あとがき　8

「遠用物」（一部）、閲覧開始

当館の中核的史料「毛利家文庫」（萩藩々政史料群、通称五万点）は、これまで第一分冊（昭和38年刊）から第五分冊（昭和53年刊）まで目録化を済ませ、総点数約三万二千点について一般の閲覧が可能となっています。残る史料については、過去に一部閲覧提供が「両公伝史料仮目録」（昭和59年刊）の毛利家文庫記録目録に基づき試みられたこともありましたが、当該目録ははなはだ不全なため、近日は提供を差控えていた次第です。

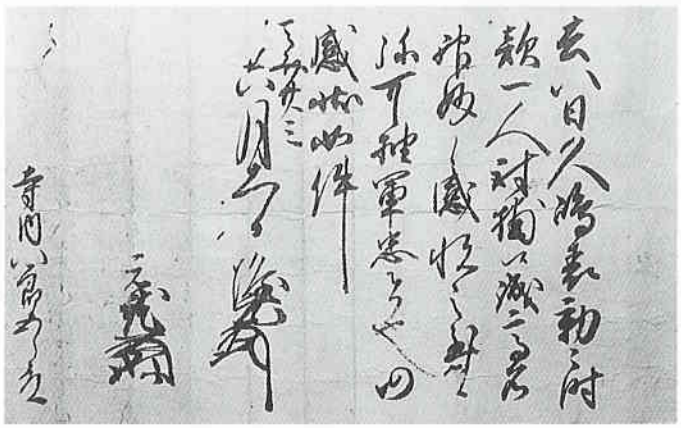
内外の強い公開要請をうけて、ここに漸くその一部「遠用物（えんようもの）」と称されている一群について、整理を実施し、過去の五分冊目録には遠く及ばない内容ながら仮目録（未刊行）という形で、順次公開して行くことにいたしました。遠用物の由来は不詳ですが、「近代物」（幕末の萩藩主毛利敬親に関わる史料群）と対をなすもので、総点数一万二千点余に達します。先ず、今年度は中世（慶長五年関ヶ原合戦まで）関係約五五〇点の公開に踏切りました。

形態のほとんどが状形式のもので、写しが多分に含まれていますが、第一～第四分冊までに多く見られる藩史編纂過程での成果物ではなく、基本的に原本であるという特長をもつものです。

次年度には近世前期（正徳期まで）の公開を考えており、今後時代を追って順次公開して行くつもりです。

これらの公開によって、多くの方々に喜んでいただき、歴史研究の密度も大いに深まるものと、整理を担当したものとして期待しているところです。

（吉積久年）



（天文二十三年六月十一日
毛利元就・同隆元連署感状）

〈誌上展示〉

建治二年の「官宣旨」

平成七年度末に収集した「官宣旨」は、鎌倉期の県に関わる文書として、先ず第一級にランクされる文書と位置づけても過言ではないであろう。

寄贈者は、当時東大寺の管長を務め、近年『東大寺辞典』を上梓されるなど、歴史学者としても幅広く活躍して居られる平岡定海師で、

東大寺と山口県は縁が深く、ゆかりの古文書も私すべきではないとして寄贈を申し出られたものである。

文書の要旨は、

周防国多仁庄（現在の田布施町）は、以前は京都公家の三条家の所領であった。ところが、鎌倉時代の後期に、一族の間で相続の争いが起こり、教誉僧都と実斉僧都が自己の分配をめぐって訴訟を繰り返した。やがて、教誉僧都は多仁庄内田布施村のうち上田布施・真殿の土地を、京都東福寺の塔中常楽庵に寄進し、今度は東福寺が当事者になって、朝廷に対しこれらの土地の権利の保障を願い出た。そこで朝廷は、建治二年（一二七六）六月二八日付けで、東福寺に対し、官宣旨をもってその権利を保障したものである。

この文書の意義については、

①「官宣旨」そのものが、県内ではおそらく唯一であろうと考えられること

②田布施村が多仁庄（たにのしょう）の一部であり、かつ複雑な所有関係が明らかにでき、田布施町は勿論、山口県の当該期の歴史を知るうえで貴重であること

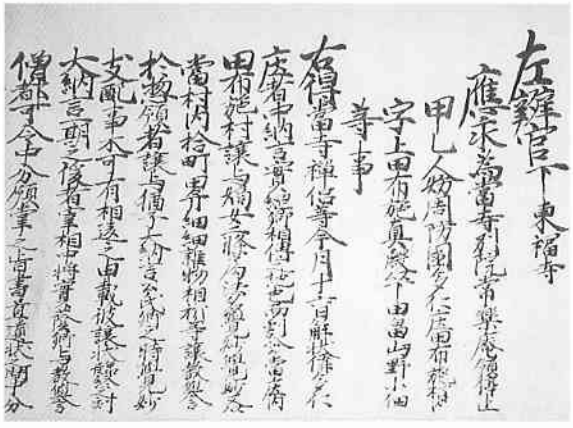
③東福寺に現存する文書の中には、田布施村について、関連の文書はほかには見当たらないこと

④朝廷文書の気品・格調の高さ

⑤鎌倉期の文書で希少価値があり、かつ保存状況も良好

等々を挙げることができる。

（小山良昌）



（官宣旨、部分）

写真メモ・1996年

＊＊＊＊＊＊＊

毛利元就関係文書展はじまる

毛利元就への関心が高まるなか、平成九年二月より、閲覧室の一部を利用して企画小展示「毛利元就関係文書展」をスタートさせました。当館が所蔵する元就関係の文書を月替わりで展示・紹介するものです。二月は加冠状・一字書出、三月は起請文をテーマに行いました。今年一二月まで開催しています。

大内版妙法蓮華経板木の調査

当館所蔵の大内版妙法蓮華経板木は、守護大名大内氏の氏寺氷上山興隆寺に伝来したもので、「大内版」と呼ばれる大内時代の印刷文化を物語る貴重な資料です。妙法蓮華経全二八品（五九枚）の板木がすべて揃っています。

平成九年三月、県指定文化財の申請のため、県文化財保護課と共同で調査を行いました。（三月二八日、県文化財保護審議会の県指定答申）

海外からのお客さま

今年も海外のお客様をお迎えする機会に恵まれました。四月には、英リバプール大学の文書館学課程上級研究員のマイケル・クック氏が、一一月には、大韓民国国史編纂委員会委員長の李元淳氏（右写真中央）が当館を訪問されました。

短い時間でしたが、貴重な国際交流の場を得ることができました。

毛利家「両公伝編纂所」時代の思い出

五月三〇日の地方調査員会議に、元毛利家「両公伝編纂所」編纂員の高橋政清氏をお招きし、編纂所時代のお話を伺いました。

当館所蔵の毛利家文庫や両公伝史料について、参考となる貴重なお話を数多く聞くことができました。

（山崎一郎）

タイトル	筆者	号数	刊行（西暦）
次なる飛躍への胎動	宮本幹雄（館長）		昭和61
国会での文書館をめぐる論議		20号	(1986)年
赤煉瓦の文書館開館	宮本幹雄	(12頁)	3月10日
文書館運動の新しい波－全史料協神戸大会参加記－	広田暢久		
写真メモ・１９８５年			
お知らせ・ご案内			
［ヲロシア船図＝徳山毛利家文庫「魯西亜志」から　〈表紙解説〉］	［巻頭カラー］	21号	昭和62 (1987)年
文書館ニュース発刊のころ－回顧と課題－	広田暢久	(12頁)	3月10日
第１回文書館振興国際会議	（北川）		
栃木県立文書館の誕生	（戸島）		
〈誌上展示〉罪科帳の保全三代	（北川）		
〈史料紹介〉これが鋳銭所だ！	（山田）		
〔閲覧室から〕/〔ワンダー文書館〕			
写真メモ・１９８６年			
［萩藩の長柄隊＝毛利家文庫『島原陣御備附』から　〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］	22号	昭和63 (1988)年
公文書館法の成立	梅田　正	(12頁)	3月10日
北海道で全史料協第13回大会	（北川）		
〈他館紹介〉広島市公文書館を訪れて	（吉本）		
〈誌上展示〉まぼろしの幕末山口城	（北川）		
〈史料紹介〉幻の貨幣	（後藤）		
〔閲覧室にて〕/〔ワンダー文書館〕	［（　）］/［（戸島）］		
写真メモ・１９８７年			
［小倉口の戦＝慶応二年夏太平新話略図（瓦版）から〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］	23号	平成元 (1989)年
創立30周年を迎えて	斎藤　博（館長）	(14頁)	3月30日
市町村に文書館を	梅田　正（副館長）		
育て、アーキビスト〔など〕	（戸島）（吉本）（後藤）		
〈他館紹介〉千葉県文書館、広島県立文書館	（平瀬）		
〈誌上展示〉戦時の絵本とヌリ絵と紙芝居	（北川）		
〈史料紹介〉空から見る山口県			
〔閲覧室にて〕/〔ワンダー文書館〕	［（　）］/［（北川）］		
写真メモ・１９８８年			
［正吉郷入江干潟絵図 県指定文化財有光家文書より〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］	24号	平成２ (1990)年
三十周年記念事業を転機として	那須　敬（館長）	(12頁)	3月30日
文書館と情報公開制度	梅田　正（副館長）		
開館三〇周年万歳！　多彩な記念事業を展開			
「公文書館法」施行一周年　文書館界の大きなウネリ			
〈他館見学〉北九州市立文書館を訪ねて	（平瀬）		
〈ワンダー文書館〉湿気・光線・バクテリア－文書の劣化防止－	（後藤）		
〈史料紹介〉有光家文書	（平瀬）		
写真メモ・１９８９年			
［「八ヶ国御配地絵図」（毛利家文庫58絵図200）〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］	25号	平成３ (1991)年
長い目で見ての未来業務を－各県からの視察者を迎えて－	那須　敬（館長）	(12頁)	3月29日
ステップアップへの研修と討議を求めて/『記録と史料』創刊	（北川）/（戸島）		
〈他館紹介〉鳥取県立公文書館	（梅田）		
徳島県立文書館	（北川）		
〈史料紹介〉瀬戸内海の交通事情	（平瀬）		
〈誌上展示〉江戸時代の防長の産物	（梅田）		
〈ワンダー文書館〉皇太子殿下の来館と文書館	（北川）		
写真メモ・１９９０年			
［（旗指物 文化二年「家之紋旗差物合印之図」）　〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］［（金谷）］	26号	平成４ (1992)年
文書館と県民との触れあい	梅田　正（副館長）	(12頁)	3月31日
公文書館法をどう活かすか？	（戸島）		
国立史料館40周年	（戸島）		
〈他館見学〉茨城県立歴史館	（梅田）		
国立国会図書館	（梅村）		
〈史料紹介〉明治の漁業調査　山口県がまとめた「水産慣例原稿」ほか	（吉本）		
〈ワンダー文書館〉原文書の大切さを知る	（平瀬）		
〈地域トピックス〉郷土の先人の遺産を守る	（金谷）		
写真メモ・１９９１年度			
お知らせ・ご案内			
［萩ガラス杯（県立山口博物館蔵）とその記録（山口県文書館蔵）（〈表紙説明〉長州藩の萩ガラス）］	［巻頭カラー］	27号	平成５ (1993)年
中国地区文書館職員懇談会	（梅村）	(12頁)	3月31日
文書館制度の拡充をめざして（愛知県で全史料協第18回大会）	（戸島）		
〈他館見学〉愛知県公文書館	（平瀬）		
山陽町立厚狭図書館	（吉本）		
〈誌上展示〉幕末の兵学者　佐藤寛作	（小山）		
〈史料紹介〉土山家文書	（山崎）		
閲覧室から			
〈ワンダー文書館〉絵図の利用に向けて	（吉本）		
写真メモ・１９９２年			
お知らせ・ご案内			
［御座備図（軸物169番）から〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］［（平瀬）］	28号	平成６ (1994)年
古文書の収集と文書館	小山良昌（副館長）	(12頁)	3月31日
行政文書の保存－その共通理解へ向けて－	（平瀬）		
史料・人・地域を結ぶネットワーク	（山崎）		
〈他館見学〉神奈川県立公文書館	（平瀬）		
〈誌上展示〉観光パンフレット－未来への遺産づくり－	（梅村）		
〈史料紹介〉明暦三年唐船、見島漂着の史料	（吉積）		
〈ワンダー文書館〉この文書、コゲてますよ！	（戸島）		
〈地域トピックス〉蘇れ水損の古経典	（平瀬）		
写真メモ・１９９３年			
お知らせ・ご案内			
［兼重暗香画「前田砲台占領」（軸物26番）から　〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］［（小山）］	29号	平成７ (1995)年
文書館勤務に想う	山本　直（館長）	(12頁)	3月31日
全史料協が20年－神奈川県で記念大会 392人が参集－	（戸島）		
全史料協会が第20回大会－シンポジウムに参加して－	（梅村）		
〈他館見学〉久喜市公文書館	（梅村）		
〈史料紹介〉平成６年度の新収文書	（山崎）/（平瀬）		
〈ワンダー文書館〉佐賀県では全機関のレコードマネージャーが歴史的文書を評価・選別	（戸島）		
〈国際交流〉大韓民国国史編纂委員会訪問	（吉積）		
写真メモ・１９９４年			
お知らせ・ご案内			
［御両国測量絵図（部分）毛利家文庫58絵図241〈表紙説明〉］	［巻頭カラー］	30号	平成８ (1996)年
山口県文書館の諸懸案解決にむけて	（小山）	(12頁)	3月29日
深まる中国地区文書館の情報交換	（梅村）		
文書館の防災対策と災害対策ネットワークを！	（戸島）		
〈他館見学〉あいつぐ文書館の建設	（戸島）		
甲信越、東北地方にも新しい文書館	（吉積）		
〈史料紹介〉「三坂圭治文庫」と「石川卓美文庫」	（小山）		
〈誌上展示〉天下人と毛利氏　秀吉とねねの文書	（平瀬）		
〈ワンダー文書館〉ブンショ（文書）をモンジョ（文書）へ［－阿東町の試み－/蘇った版本大般若経/譜録の写真帳化完成］	（戸島）（平瀬）（平瀬）		
〈閲覧室から〉進む文書目録の刊行	（山崎）		
写真メモ・１９９６年			
お知らせ・ご案内			

（付記）各号巻頭目次をベースとして立項した。［　］は目次以外からの補充である。（百田昌夫）

文書館ニュース　1～30号(1965～96)：総目次

タイトル	筆者	号数(頁数)	刊行(西暦)
各県に文書館をつくろう	(広田)		昭和40
国立史料センター問題と文書館	(利岡)	1号	(1965)年
近県ニュース		(10頁)	9月20日
(岡山・広島・鳥取・佐賀)			
(岡山県の文書館設立運動)	(長光徳和)		
(広島県における文書館設立運動について)	(土井作治)		A5判
(鳥取県下所在の史料について)	(徳永聡男)		(1～
(佐賀県文書館の必要性)	(福岡弘)		30号)
欧米諸国文書館の設立事情	(田村)		
文書館法の制定に進むために	(森田)		
国立文書館に望むこと	(広田)		
編集後記			
ご挨拶	兼清正徳(館長)		昭和41
最近における日本史史料保存利用		2号	(1966)年
問題の動向－学術会議を中心に－	木村　礎	(14頁)	5月10日
文書館について－婆言三片－	鈴木賢祐		
「国立文書館」問題の新段階	石井寛治		
福島県における「文書館」もしくは			
「文化会館」設置のうごき	誉田　宏		
埼玉県における歴史的史料の調査			
保存の動向	森田雄一		
文書館と図書館	渡辺秀忠		
史料保存・利用問題の動向	木村　礎		昭和42
埼玉県における文書館建設の動向	森田雄一	3号	(1967)年
山口県文書館ニュース		(10頁)	9月5日
山口県政史編集について　萩藩			
閥閲録第一巻の編集を終えて	(広田)(利岡)		
日本史資料の保存・整理・利用・サ			
ービスについての構想案(四二			
年度第一次案)の問題点	(田村)		
文書館設立運動について	林　英夫		昭和44
都道府県史の編さんと資料保存		4号	(1969)年
－広島県史の編さんをとおして－	甲斐英男	(12頁)	2月15日
下関文書館について	中原雅夫		
豊田町史料館について	安村　睹		
山口県文書館ニュース	(田村)(国守)(広田)		
編集後記			
歴史資料保存法の意義と今後の運動	木村　礎		昭和45
東京都公文書館について	菊池　昭	5号	(1970)年
伊丹市立史料館(仮称)について	門脇良光	(14頁)	5月10日
阿武川民俗資料館(仮称)について	波多放彩		
地方文書館設立の問題点	兼清正徳		
山口県文書館ニュース	(田村)(後藤)(広田)		
編集後記			
古文書館設立運動について	児玉幸多		昭和46
岩国徴古館について	桂　芳樹	6号	(1971)年
近世史料担当職員講習会について	鈴木　寿	(12頁)	5月1日
地域住民と文書館をつなぐもの	北川　健		
閥閲録所収文書の考証史料について	田村哲夫		
山口県政史の編集に参加して	国守　進		
挨拶にかえて	松村　茂(館長)		昭和47
戦後史料の保存を	大城立裕	7号	(1972)年
文書館類似施設の現況		(16頁)	11月1日
(アンケート報告)	(梅田)		
京都府立総合資料館について			
石川県立郷土資料館と文書館的性格	亀田康範		
瀬戸内海歴史民俗資料館について			
山口県文書館だより	(国守)(田村)		
山口県文書館の新しい建物について			昭和49
山口県文書館新館舎移転作業日誌		8号	(1974)年
山口県文書館利用の側から		(12頁)	3月1日
山口県史編纂長期計画について			
「毛利家文庫目録第四分冊」の出版			

タイトル	筆者	号数(頁数)	刊行(西暦)
公立文書館の設置状況について	松村　茂(館長)		昭和50
文書館協議会の結成を望む	広田暢久	9号	(1975)年
山口県史料の継続出版事業	田村哲夫	(8頁)	3月
ご挨拶にかえて	田村武文(館長)		昭和51
県庁史料の収集と整理について	広田暢久	10号	(1976)年
山口市公文書室の現状	高橋文雄	(12頁)	2月
山口県文書館だより	(小山)(広田)(吉本)		
郷土史料室の現状と問題点	土屋貞夫		昭和52
郷土資料館について－宇部市立図書館付設－	津脇清子	11号	(1977)年
下関文書館について	西谷重道　「(吉本)	(8頁)	1月
山口県文書館だより	(広田)(小山)(北川)		
郷土資料の地元移管について－厚狭毛利家文書の場合－	江沢能求		昭和53
福栄村行政文書の保存について	大平　勇	12号	(1978)年
行政資料の保存をめぐって－長門地区図書館職員連絡協議会－	三隅大策	(10頁)	3月1日
文書館だより	(広田)(吉本)		
古文書研究会を顧みて－文化センター(仮称)建設を機に－	国広哲也		昭和54
「長門市史」の編纂と史料収集	上田俊成	13号	(1979)年
女性グループ"古文書を読む会"三周年を顧みて	(館長田村武文)	(10頁)	3月20日
[会発足までの想い出]	平井彰子		
[会のあゆみ]	池田　道		
[古文書を読む会で学んで]	山県照江		
文書館だより			
文書館法成立への期待	木梨亮一(館長)		昭和55
第十一回全国都道府県史協議会報告	田村哲夫	14号	(1980)年
山口県市町村行政文書保存状況一		(8頁)	3月20日
覧表について	広田暢久		
山口県内古文書緊急調査	石川敦彦		
公文書の収集と整理をめぐって	高佐原茂郷(館長)		昭和56
歴史民俗資料館と古文書収集保存活動－豊北町歴史民俗資料館の場合－	伊藤忠芳	15号	(1981)年
長府博物館の歴史と長府毛利家資料	越智令而　「務局	(8頁)	3月20日
文書館法制定に向けて	山口県地方史学会事		
市町村史編さんと文書館	平田豊彦(館長)		昭和57
町史編纂における二、三の問題点	樹下明紀	16号	(1982)年
町史の編纂と史料の収集・保存について([橘町史])	岡本　定	(8頁)	3月31日
市史編さんと史料の調査・保存([美祢市史])	土屋貞夫		
市町村史の刊行状況について	吉本一雄		
文書館法の制定を望む	松本隆馬(館長)		昭和58
文書館法に盛るべき内容試案	広田暢久	17号	(1983)年
文書館の独自性と存立の意義	北川　健	(10頁)	3月30日
都道府県立文書館設置のあゆみ	小山良昌		
緊急シンポジュウム「史料保存・			
利用問題の現在」傍聴記	戸島　昭		
文書の整理と目録の公刊と－今後			昭和59
の課題として－	山下義雄(館長)	18号	(1984)年
情報公開システムの登場と文書館		(12頁)	3月30日
－埼玉県立文書館を見学しての記－	北川　健		
文書館論議の出発点	戸島　昭		
山口県文書館の公文書			
(1) 収集状況	広田暢久		
(2) 整理状況	吉本一雄		
(3) 閲覧利用状況	小山良昌		
山口県下の公文書目録の刊行状況	百田昌夫		
文書館設立への提言	山下義雄(館長)		昭和60
広島県の文書館設立の朗報と対話	北川　健	19号	(1985)年
探訪 史料保存機関の現状		(8頁)	3月30日
(一鹿児島県　二宮崎県)	戸島　昭		
福岡県内の史料保存施設			
－福岡県立図書館を訪ねて－	吉本一雄		
文書館業務の反省と課題	広田暢久		
〈文書館だより〉11万回(16年間)を			
越えた「毛利家文庫」の閲覧回数	(百田)		

文書館整備構想検討会

平成七年（一九九五）度末の当館収蔵史料点数は約三八万点に達します。昭和三十四年（一九五九）設置当初約八万点でしたから、増加率は五倍にも及んだことになります。また現施設に移った昭和四十八年（一九七三）当時と比べてみても約三倍にもなります。ところが書庫は七〇九㎡の面積を保ったままで、溢れたものは、春日山庁舎（旧山口県立山口図書館、現山口県立山口博物館の隣り）の旧書庫棟の一部を仮書庫にして収納し急場を凌いでいるありさまです。

この書庫問題解決を第一の課題に、情報化時代に相応しい施設の充実等を図るべく、今年度整備構想検討会というワーキング・グループを設けて将来展望を模索しました。

わが国最初の公文書館として出発したものの、今や都道府県立だけでも公文書館法（昭和六十三年制定）に則る施設は二十六館に達するに至っています。書庫面積では十八位、書架延長（当館四・三km）でも二十一位に甘んじるという状況で、しかも収蔵点数は第五位です。

平成八年六月一日、要項を定め、県庁及び教育庁関係各課代表十名で構成する会を組織し、六月二十五日、八月二十三日、九月十二日、十月十五日の計四回会を催しました。また、事務局も別に十回以上も会議を持ち、協議を重ねました。そして、以上の成果を十一月に二〇頁にわたる報告書としてまとめました。

主要な問題点として、

（1）組織等のあり方を含む公文書の的確な保存体制の確立

（2）書庫面積の絶対的不足

（3）文書館としての諸施設の不備

（4）高度情報化時代に見合った機能の不備

の四点が指摘され、これを解決する手だてとして、

（1）春日山庁舎利用案

（2）春日山庁舎部分再生案

（3）新館舎建設案

の三案が導き出され、中でも第二案を押す意見が大勢を占めました。

つまり、春日山庁舎の本館棟（昭和三年建設、初期鉄筋コンクリート造りとして山口県下にのこる代表的建物）の基礎や骨組み等は全面的に改めるが、文化財的価値のある外観などの意匠は可能な限り再生させようというものです。ただし書庫棟は解体し、同一場所に新たに建築。

あくまでも、これは指針であり、明確な方向を打ち出すには、さらに広汎な意見聴取の機関を設けるべきとの合意に達しました。

（吉積久年）

〈地域トピックス〉

元文書館地方調査員の倉増清さんから、阿東町での行政文書の整理について情報を寄せていただきました。

阿東町での行政文書整理

倉増　清

今阿東町では、行政文書の整理を進めています。一昨年六月、文書館の戸島昭専門研究員（当時）をお招きして、「文書から文書へ」と題して講演していただきました。行政文書の中から歴史的・文化的価値のある文書を継続的に収集することの必要性・その中から何を遺し何を遺さないのかの価値判断をして遺すことなど、講演は聴衆者の反響を呼び、行政文書の早急な整理の必要性を感じました。

町長もかねてから行政文書の整理を気に掛けていたことから、話はとんとん拍子に進んで、早速実行されることとなりました。

整理は、倉増と町役場の総務課長を退職した倉田寿明氏が非常勤職員（総務課広報文書係）となり、歴史的価値は倉増が、文化的価値は倉田氏が担当する形で行いました。

まず最初に手を付けたのが本庁の分散倉庫内の文書です。遺すべきものは正規の段ボール箱に入れて一目で分かるように明記し、廃棄するものはみかん箱等に入れておくことにしましたが、実際に当たってみると樹木の間伐をする様な難しさがありました。

次に町内各支所の文書整理を行いました。生雲支所（旧生雲村）の公民館二階の倉庫に保管してある文書は、生雲が鉱石の採掘や石灰製造などを行っていた関係から膨大な数のものが遺されていましたが、一応よく整理されており仕分けは容易にできました。篠生支所（旧篠生村）は、これまでに土蔵の雨漏、二度の支所建替・移転、阿武川の洪水などで、二〇余年前に調査した文書の大部分がなくなっており、今は支所内の隣部屋にわずかばかりの文書が残っていました。地福支所（旧地福村）と嘉年支所（旧嘉年村）は、土蔵によく整理保管されていましたが、屋根の傷みもあり、今回の整理は機を得ていました。

支所文書の調査整理は一応終わりましたが、いまだに手を付けていないのが、本庁内の倉庫にある千余箱の行政文書です。六メートル位の高さに積み重ねてあるため容易に取り出せず、若い職員に搬出してくれるよう言ってあるのですが、一向に埒が明かず、中休みの状態になっています。

この整理を済まして、七ヶ所の文書を一堂に集めて、町立文書館の産声の聞こえる日を待ちこがれています。

アーキビストの祭典

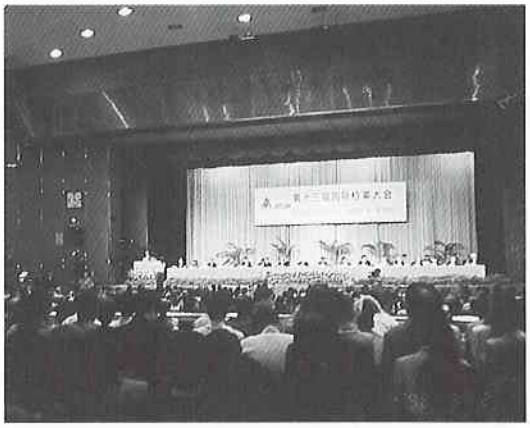
―第13回ＩＣＡ北京大会―

第13回ＩＣＡ（International Congress On Archives・国際文書館大会）が、平成８年９月２日（月）～７日（土）の５日間、北京市の北京国際会議センターを会場に開催されました。ＩＣＡは４年に一度開催される世界のアーキビスト（文書館専門職員）たちの祭典で、加盟する１４９の国および地域などから約２６００人が参加する大規模な大会となりました。日本からの参加者は全史料協の団体など総勢61名で、当館からは吉積・山田専門研究員の２名が参加しました。

今大会の総括テーマは「20世紀をしめくくる文書館活動－回顧と展望」でした。連日開催された全体会では、それぞれ「１９１０年ブリュッセル会議に始まる文書館界の国際協力」、「文書保存にかかる法令構成とその基盤の継続性と変遷」、「オランダの文書館ハンドブック出版以来の文書館の理論と実践の相互作用」、「近代技術が文書館と文書館業務に及ぼす影響」のテーマのもと、基調報告に続いて補足報告や意見交換が行われました。

会期中に北京市内の文書館視察も行われ、我々は「西城区　案館」「中国歴史档案館」「北京市　案館」を視察することができました。コンピューターによる文書（中国語では「档案」（タンアン））整理やマイクロフィルム化などのＯＡ化も進んでいました。収蔵・閲覧・展示設備も整っており中国における史料保存機関としての文書館の認識度の高さを示していました。広大な国土と人口をかかえるとはいえ、国内には約３６００の档案館があり、アーキビストの数はざっと１００万人に達すると云われる中国文書館界の活力を強く感じました。わが国の文書館に対する一般の認識は未だ十分とは言えませんが、世界においてはそのような次元をはるかに越え、前進を続けていることを強く認識して帰国の途につきました。

（山田　稔）



書物を読む

宮本典彦

文を書くにせよ、読むにせよ、限られた人生ということを考えると、その重さを各自感じとるべきなのであろう。書を読む態度について教えられる書物は数多い。

吉田松陰の『猛省録』は、古人の生きざまを摘録するなかで、松陰自身が、自らの生き方を追求し、表明した書であると解してよいであろう。中でも読書にかかる記述は我々に教えることが多く、万巻の書を読むことと有為なる人生との結びつきを説いていた松陰自身の学問に対する姿勢を示すものでもある。この猛省録には、印象的な人物が何人か出てくる。韓愈の、聖人の志でないと心に留めずとした書の読み方は、我々に内容なき書物の乱読の薄さへの反省をうながす。また、唐宋八大家の一人といわれた蘇洵が、自作の文を焼き捨てて、聖人・賢人の文を読むそのすさまじい努力に心を打たれないものはない。更に、胡瑗の、泰山での十年を超える書の読破とその姿勢は、現在人の真似のできるところではあるまい。書物をめぐる生き方について、この『猛省録』に教えられることは、現在においても非常に多いのである。

また、『菜根譚』の後集に、「人は有字の書を読むを解して無字の書を読むを解せず…跡用を以ってして、神用を以ってせず…」との記述がある。この言葉は、陶淵明にその弾じる無絃琴の意を聞くと、「若し、琴中の趣を知らば、何ぞ絃上の声を弄せんや」との答えが返ってきたことにそのいわれを持つところの「何を以って琴書の趣を得ん」という文言につながるのである。この文意は、おおむね次のようになる。

（多くの人は、文字のある書物を読むことを知っているが、文字のない活書を読むことを知っていない。形体にのみとらわれて、精神を用いることが出来ないからである。これでどうして真実の琴や書の趣を会得できようか。）

しかし、無絃琴の心に至ることは容易なことではなく、この心を会得するには、先ず松陰の教えにある如く、真摯な態度で多くの書を読みこんでからのことではないだろうか。

文書には、その時そのときの人間の心が生きており、その心を理解してこそ、無絃琴の心が理解できるのだと思うのである。

（山口県文書館館長）

一九九七年度・事業計画から

【歴史講座（岩国市）】（申込　岩国市教委）
会場　岩国市市民会館
・5月9日　「吉川家の目利関係資料と絵画－伝雪舟筆湖亭春望図を中心に－」
講師福島恒徳（県立美術館専門研究員）
・5月16日　「絵図に見る岩国の町と村」
講師　河村克典（文書館専門研究員）
・5月24日　「庭園とその作庭記録について－松巌院庭園を中心に－」
講師　西　桂（「山口県の庭園」執筆）
【歴史講座（阿武町）】（申込　阿武町教委）
会場　阿武町町民センター
・9月3日　「近世日本民衆の見た朝鮮人－漂流の近世日朝関係史－」
講師　池内　敏（鳥取大学助教授）
・9月10日　「鯨と唐船」
講師　吉積久年（文書館専門研究員）
・9月17日　「長門北浦漁民の対馬出漁」
講師　木部和昭（山口大学助手）

【古文書基礎講座（田布施町）】
・期間　11月6日～12月11日（金曜日）
・会場　田布施町立郷土館
【古文書専修講座】
・期間　4月～3月（第2火曜日）
・会場　山口県文書館
【古文書活用講座】
・期間　8月25日～28日
・会場　山口県文書館
・対象　小中高校教員
【企画小展示「毛利元就関係文書」】
月替わりで、元就の関係文書（山口県文書館蔵）を、つぎつぎ紹介していく。
・会場　山口県文書館
（企画小展示コーナー）
・会期　12月25日まで（2月3日開始）

【開　館】9時～17時（月曜日～金曜日）
（土曜日は9時～12時半）
【休　館】日曜・祝日・月末整理日・春秋文書整理期間・年末年始

編集あとがき

あらたな世紀を控えて、発想の転換が要請されています。第31号より従来の判型（A5判）を変更して再スタートしますが、レイアウトはテストパターンです。この機会に1号～30号の総目次を編成。「文書館ニュース」にもまた、ひとつの歴史資料としての性格があることを再認識させられました。模索・試行も含めて切磋琢磨を重ね、温故知新を図りたい次第です。（百田昌夫）

【閲覧室よりメッセージ】

明治以後の資料も収集してほしい

山口市・竹原　伸雄

最近よく云われる生涯教育の一環ではありませんが、私は、少年時代より郷土史に興味を持ち、仕事の合間に、年一週間程度利用して居りますが、文書館の文書は、難読の文字が多く、読み辛いので写真で複写して帰り、家で夜間ゆっくりと頭の体操をして居ります。

資料の利用目的は、多種多様で、仲々難しい事とは思いますが、利用頻度の高い資料を活字本で発行、又は、楷書に書直し、コピーする事により、古文書の読めない人達も当館が利用し易くなるのではないでしょうか。

明治以後の資料が不十分な感が致します。この事は、現在の風習として不要物は、捨てるという空気があり、今の内に収集して置かないと、空白の時代を見る事になり、また、冬眠している資料がかなり存在していると思いますので、提供を受ける事が難しいのであればコピー、複写等で収集されることを望みます。

文書館に保存されている文書類は、貴重な文書であり、文化財価値の高い文書であるが故に、管理する方々は、大変なご苦労でありますが、現状よりは損傷しない様に、また、閲覧される方々は、注意されて利用したいものと思います。

実際の資料に触れること

山口市・山下　聡一

一ノ坂川を初めて目にしてから十年を経ようとしている。父親に連れられて二人きりで瑠璃光寺と一ノ坂川の桜並木を通った記憶が鮮明に残っている。其頃の自分はこれといった興味もなく、ただ漠然と中学に通い、部活も程々に活動している毎日を送っていた。高校も山口に通う事になり、しばしば県立図書館に足を運ぶことになるのであるが、文書館の存在は学部に上がる迄は頭になかった。

初めて文書館に足を踏み入れたのは大学の教官につれられて同じ研究室の友達と行ったときであり、重苦しい雰囲気の中に場違いの自分がいることに少し戸惑っていた。当時は史料、扱い方も解らず何度か注意を受けた。卒論を書くにあたって多くの史料を見ていくと、実際の史料に触れることの出来る有り難さが解ってきたように思える。

目を通した史料は文書館にあるものの中のほんの一部でしかなく、まだまだ読めない字が多く、辞書を片手に教官に聴きながら解読しないとならないのではあるが、これからも自分の生活の一部に文書館で時間を過ごすことが入ってくるのは間違いないし、将来、研究とはいかないまでも文書に目を通し続けたい。ただひとつ難点を挙げると、家から通うのに遠い。自転車で移動する自分にとっては山口の気候の中で走る三十分弱はつらい。贅沢な悩みなんでしょうが…。

編集・発行　平成9年（1997年）3月31日　山口県文書館（もんじょかん）／印刷　山口印刷工業㈱

018
山口県 '99.7.6 文書館